

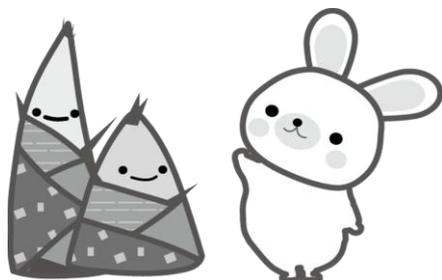
春のお彼岸



毎日にここに、思いやりを大切に

桃の節句が過ぎると、あっという間に春のお彼岸を迎えます。「暑さ、寒さも彼岸まで」というように、春分の日を中心に前後3日間の7日間は、とてもよい気候となります。

毎日いそがしいけれど、せめて陽気のよいお彼岸には仏教徒として修行に励んでみませんか？



仏教では、「何かに執着する」「こだわりを持つこと」こそが、私たちの苦しみの原因と言われます。

「修行」と聞くと、急に自分とは無関係な言葉に思えるかもしれませんが、「物事に執着する心」を少しでも捨てて、気持ちを楽にすることが修行の第一歩です。

今回は、その修行のひとつである「施し(ほどこし)」をご紹介します。

「施し(ほどこし)」には、「見返りを求めない」という大きな特徴があります。見返りを求めれば、それは施しではなくなります。

生まれたばかりの赤ん坊は、お金や物など何ひとつ持たずに私たちを幸せにしてくれます。学校の子も達が、「おはよう」「こんにちは」と気持ちよく挨拶をしてくれると、こちらも何ともいえない清々しさを感じます。



この赤ん坊や学校の子も達のように、今自分の目の前にいる人が「気持ちいいな」「うれしいな」と感じてくれて、心が「ほっ」とする・・・そんな施しをしてみませんか。



にこやかに、やさしい思いやりある言葉かけをする、それだけで、十分気持ちの良い施しとなります。

大智寺だより

平成 23 年 弥生

発行所

大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話: 058-229-1532

Mail:

hybsr245@ybb.ne.jp

ホームページ

大智寺

検索

<http://www.geocities.jp/daititoukai>

今月の当紙発行には、
山口染色様の
ご支援をいただきました。
ありがとうございます。

広がる大智寺の輪

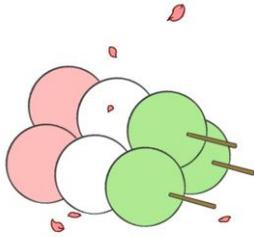
〜一期一会その瞬間〜

大智寺のお土産に
おだんごはいかが？

始めは観光で大智寺を訪れてくださった方がその後、幾度もお参りに来て下さり、次第に親しくお付き合いさせていただく・・・といった方々も徐々に増えてきました。そんな方々の中に、なんと大智寺に十年近くも通い続けてくださっている方がいます。

その方が先日、「お寺のお土産を作ってみてはどうでしょう」とご提案くださいました。おだんごを考えてくださったお姿が、

桜の花見には間に合いませんが（笑）大智寺を好きになり、お寺のことを真剣に考えてくださる方がいるということが何より嬉しい、そんな春のひとときでした。



大智寺を描いた水彩画
個展で展示される

初孫のためにアンパンマンなどキャラクターの絵を描いたのをきっかけに水彩画を始められた方の手作りの個展が先日ありました。

会場となった喫茶店の木のぬくもりと、会場内をされる奥様の親しみやすさ、そして絵から伝わってくるご主人の風景を見つめる優しいまなざしが一体となった見応えある展示の数々でした。

そんな作品の中に大智寺を描いた水彩画を見つけビックリ。なんと、絵の額縁は木の手作り、装の紋がはためく幕がとき、お賽銭箱が置かれている・・・

「結構、絵の前でお参りされてお賽銭入れられる方多いですよ」とのこと・・・楽しいアイデアいっぱい、心込む個展でした。本当に、ありがとうございました。



3月おわりには、お墓の前の桜も咲き始めることと思います。

そろそろ動物たちの冬眠もおわり

お寺にお参りされる時は、草むらなど茂みは、避けられた方が心臓に良いでしょう。



3月、

お寺の中は・・・ ツバキ 椿 つばき



たくさんの椿が 皆さまをお待ちしております

お寺の山門をくぐると、さまざまな種類の椿が迎えてくれます。春の暖かな日光を受けると、椿は一斉に花開きます。

「ポトリ」と落ちる椿は、武士の潔い生き様にたとえられ、特に徳川将軍二代目の秀忠はとても椿を愛でられたそうなお屋敷である吹上御殿に椿の花畑を作られるほどだったとか。

また、茶道を大成した千利休に好まれ、椿を珍重したため「茶花の女王」と呼ばれるようになった椿。

ちょうど、お彼岸には見ごろを迎えることと思います。椿の花言葉は「謙遜」「ひかえめな愛」だそうです。穏やかな春のひとつとき、お寺参りの時には、どうぞお楽しみください。



お彼岸のおもてなし

3月19日・20日・21日は3連休です。お寺では、各日午後より皆さまのお参りをお待ちしております。
(午前中は法要の為、本堂を使用します)
初めてお越しになる方も、お気軽にどうぞ。

～ シリーズ 北野のおばあちゃんの味 ～

♪ 北野で丁寧に野菜を育てるおばあちゃんの味 おすそわけ ♪

里5号のおばあちゃん 菜の花辛し和え作り

- ① ぶくぶく沸騰したお鍋に塩を入れて、さっと菜の花をゆでる
- ② すぐに菜の花を湯切りして、3cmほどに切る
- ③ 白みそ、みりんを1対1で加え、お好みで練りがらしを入れる
- ④ 菜の花に出来上がったタレをかけて、できあがり

春は、ほろ苦い菜の花がやっぱりいいね。黄色の花もかわいいけれど和え物にするとおいしいよ。子どもの頃は、よく菜の花を積んだもんや。今は孫と“春いちばん”を探しに行くよ。よくツクシも見つかるし、ヨモギが見つかるとうれしいね。





3月27日(日) 支考忌

大智寺ゆかり 各務支考を偲ぶ連句会



大智寺で6才～19才まで小僧生活を送り、その後松尾芭蕉の弟子となった各務支考を偲んで、連句会が行われます。この連句会は、支考が広めた美濃派正式俳諧の披露であり、重要無形民俗文化財に指定されています。

全国的な支考の俳諧結社『獅子門』の会員の皆様が、長い歴史の中脈々と受け継いでこられた連句。儀式的におごそかに行われるこの連句会は、見学だけでも十分見応えあるものです。

当日は、10時より支考の住居跡「獅子庵」にて始まり、昼から大智寺書院にて連句の予定。

見学ご希望の方は、お寺までご連絡くださいませ。

今月のひまわり

京都修学旅行のコースには、たいてい宇治平等院鳳凰堂が入っています。遠い記憶をたどってみると、建物の前に池があつて、その池のほとりからは、ツバサを広げたような鳳凰堂、そして鳳凰堂の阿弥陀如来様のお顔が見えるように工夫されていたんだっけ・・・西日が鳳凰堂の後ろに見えてまぶしかったな

年に二回のお彼岸は、真東から日が昇り、真西に日が沈むため、東西の方向が正確にわかります。仏教では、西の方向へ何万憶土も進むと、極楽浄土が広がっていると伝えられています。そのため、亡くなられた方が迷うことなく真西(極楽浄土の方角)へ向かってほしい、との気持ちから真西がわかるお彼岸に先祖供養のお墓参りをするようになったそうです。

平等院のように真西を拝むと阿弥陀如来様がいらっしゃる、というわけにはいきませんが、大きな夕日が西の地平線に消えてゆく景色には、やはり大いなる力、神秘さを感じられます。夕方に散歩をされる方、最近夕日なんて見えないわという方、亡くなられた方がきつと夕日の方向に進まれていると思ひながら、年に二回夕日を拝んでみてはどうでしょう。

永代供養墓って、どんなお墓？

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、永代にわたって、お寺が守って供養するお墓のこと。

もはやお墓に入っている方の縁者が、まったくいない状況になると、そのお墓は通常「無縁墓」という悲しい名前となります。

故人がそんな寂しい思いをしなくてすむように、永代供養墓があります。「通常のお墓だと、管理費を払ってくれる縁者がいなくなった場合、将来どうなるのか不安」という場合でも、もともと管理費が発生しない大智寺永代供養墓では、縁者がいなくなろうとも、大智寺が存続する限り、故人のためにご供養いたします。

完全個別永代供養墓

1区画：25万円～
(墓石代金含む)

特色

- ◎宗教・宗派 不問
- ◎大智寺での供養内容
月命日の供養
春秋彼岸の供養
- ◎追加納骨 可能
夫婦、家族でご利用可
(追加料金 なし)